

共通科目

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 リハビリテーション医学総論 I (内科・神経内科)</p>	<p>【担当教員】 氏名 張馬 梅蕾 [研究室] E棟2階</p>
<p>【授業区分】 共通科目</p>	<p>[内線番号] 303</p>
<p>【授業コード】 a 101</p>	<p>[メールアドレス] harima@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 木曜日：9：00～17：00</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科での履修は、リハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓につながるものでなければならない。 ・対象とするヒトの病態の特徴を把握し、リハビリテーション医療における問題点を併せて明らかにすることができれば幸いである。 <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療は患者を中心とするものである。患者がもつ問題点を解決すべく履修してほしい。過大な情報からの継ぎ接ぎのような論文を作ってはならない。 ・試験・レポートのフィードバック方法：メールや面談などで個別対応 	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般医学の中でもとくに摂食嚥下障害、高次脳機能障害、心の健康科学、運動機能科学のそれぞれのコースにかかわりの深い医学について学ぶ。摂食嚥下障害関係では、摂食嚥下関連器官の機能と病態について、高次脳機能障害関係では認知症による精神機能低下や失語・失行・失認等の巣症状とその背景について、運動機能科学関係では、骨・筋組織変化とその対応を中心に、広範な医学の中でも比較的限られた分野を選択的に履修する。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害、高次脳機能障害、心の健康科学、運動機能科学のそれぞれのコースにかかわりの深い疾患病態とその対応について学ぶ。 <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う変化について説明できる。 ・脳血管障害に関わる病態について説明できる。 ・嚥下障害に関わる要因について説明できる。 ・骨・筋組織障害について説明できる。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート60%、その他40%の割合で評価する。</p>	
<p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>学生時代に使った内科書など。</p>	
<p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂原茂一：リハビリテーション（岩波新書） ・安藤徳彦：リハビリテーション序説（医学書院） 	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	人の老化と臓器機能低下	高齢者総合的機能評価の重要性 フレイルの概念	ヒトの諸臓器の機能等を復習しておく.	30
2	生活習慣と血管障害	運動療法の理論	ホルモン分泌から効果発現までの過程	30
3	脳血管障害後の身体及び運動機能	うつ病態	高次脳機能について学習しておく.	30
4	廃用症候群と低栄養	サルコペニア, 骨粗しょう症	栄養学の初歩的学習をしておく.	30
5	アルツハイマー病	早期治療～予防に向けて	細胞の蛋白質生成機序を整理しておく.	30
6	パーキンソン病の病態と対応	早期診断、早期治療に向けて	運動と調整機能を復習しておく.	30
7	嚥下障害と誤嚥性肺炎	胃瘻と問題点	肺炎を復習しておく.	30
8	終末期リハビリテーション その他の問題	高齢者リハビリにおけるその他の問題点 がんリハビリ	どんな問題があるかを確認しておく.	30

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールや面談で個別対応
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。
<p>【教員からの一言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）	【担当教員】 氏名 高橋明美 [研究室] A棟1階
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] a_takatashi@nur05.onmicrosoft.com
【授業コード】 a 102	[オフィスアワー] 月～木：9：00～18：00 金：13：00～18：00
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 特記なし 《受講者に関わる情報》 授業は講義形式で行う。また、講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。こうしたトピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。	
【一般教育目標(GIO)】 リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する。また、医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶことで、「障害の予防」に対する理解を深める。	
【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・近年のリハビリテーションの役割について説明できる ・運動器リハビリテーションの意義について説明できる ・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で総合的に評価する。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する	
【指定図書・参考書】 その都度紹介する	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と 方向性	障害の発生予防に視点を置いたリハビリ テーションをどのように展開してい るか	配布講義資料を復習	30分
2	運動器リハビリテーション①	ロコモティブシンドロームに視点を おいたリハビリテーションの展開	ロコモについて準備学習 配布講義資料を復習	30分
3	運動器リハビリテーション②	「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」と の関係について	サルコペニアについて準備学 習。配布講義資料を復習	30分
4	身体的虚弱 (Frailty) に対するリハビ リテーション	Frailty の構造とリハビリテーション (評価から治療、予防まで)	フレイルについて準備学習 配布講義資料を復習	30分
5	骨・関節疾患のリハビリテーション	関節リウマチや変形性関節症に代表さ れる骨関節疾患の病態からリハビリテ ーション	骨関節疾患について準備学習 配布講義資料を復習	30分
6	疼痛のリハビリテーション	種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する 評価から治療—CRPS との関連	疼痛について準備学習 配布講義資料を復習	30分
7	脊椎疾患のリハビリテーション	腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表さ れる脊椎疾患の病態からリハビリテ ーション	脊椎疾患について準備学習 配布講義資料を復習	30分
8	がん患者のリハビリテーション	がん患者の問題となる廃用症候群の予 防から QOL 向上まで	がんリハについて準備学習 配布講義資料を復習	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートにコメントを加えて返却します</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>講義テーマや内容は前後する可能性があります</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 研究方法論	【担当教員】 氏名 八木稔（非）、山村健介（非） [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 基礎科目	[内線番号]
【授業コード】 A 104	[メールアドレス] 山村：yamamurak@dent.niigata-u.ac.jp [オフィスアワー] 授業終了後に教室で質問を受けつける
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>特になし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>全回の聴講を希望する</p> <p>初回講義後、次回講義までに準備すべき学習課題を提示する</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>山村：これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。</p> <p>八木：まず、疫学的な観点から観察研究と介入研究について学びます。つぎに、医学統計学の基礎的な考え方、統計学的な分析方法の意味、および統計的な検定方法を学習します。さらに、その実際的な適用の仕方について実用に即したデータ処理について理解してもらいます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>山村：研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。</p> <p>八木：研究における統計学の考え方と方法を具体的に理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>研究とは何かを理解する。</p> <p>研究の方法には種々のものがあるので、それぞれについての特徴を知る。</p> <p>学術論文の構成を理解する。</p> <p>アイデアと仮説の違いを説明できる。</p> <p>仮説に基づいて実験計画をたてることができる。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>受講時のパフォーマンス 50%、レポート 50%の割合で評価する。</p>	
<p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>プリントを配布する。</p>	
<p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>山村；随時説明する。</p> <p>八木；随時説明する。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	観察研究, 分析研究, および介入研究 (八木)	観察研究, 分析研究 (コホート研究, 症 例対照研究) および介入研究, それぞ れの特徴と考え方について講義する。	準備学修: 左記3つの研究様 式について調べておくこと。 事後の展開: レポートを提出 すること。	90分
2	統計的検定 (I) オッズ比, および相対危険度 (八木)	カイ二乗検定およびフィッシャーの確率 検定について講義と演習を行う。	準備学修: カイ二乗検定につ いて調べておくこと。 事後の展開: 課題を解きレポ ートとして提出すること。	90分
3	統計的検定 (II) 統計的推測 (八木)	t 検定および分散分析について講義と演 習を行う。	準備学修: t 検定と分散分析と の異同について調べておくこ と。 事後の展開: 課題を解きレポ ートとして提出すること。	90分
4	相関と回帰 (八木)	相関係数, 相関と因果, 単回帰分析, 重 回帰分析, およびロジスティック回帰分 析について講義と演習を行う。	準備学修: 相関と回帰の基本 的知識について調べておくこ と。 事後の展開: 課題を解きレポ ートとして提出すること。	90分
5	科学的な研究方法とはー研究の種類 学術論文の構成 (山村)	科学的な研究方法とはー研究の種類 学術論文の構成	準備学修: 各自の研究テーマ を考えておくこと。 事後の展開: 各自の研究テー マにあった総説論文、原著論 文を1編ずつ探すこと。	90分
6	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方 (山村)	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方	準備学修: 上記の原著論文を 一読しておくこと。 事後の展開: 各自の研究テー マについて総説論文の情報を 活用しながら仮説を複数立て ること。	90分
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法 (山村)	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	準備学修: 上記仮説の実現性 を検討しておくこと。 事後の展開: 立てた仮説の妥 当性を裏付ける文献を検索す ること。	90分
8	文献の読み方 軌道修正の必要性ー研究例紹介 (山村)	口頭試問	準備学修: 新たに集めた文献 を一読しておくこと。 事後の展開: 研究計画につ いてのレポートを提出するこ と。	90分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法】</p> <p>山村: レポートに対するコメントをメールで送付します。</p> <p>八木: レポートにコメントを付けて返却します。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>修士論文研究を通して、高度な知識の活用能力、批判力、論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>山村: まだ具体的な研究プロジェクトは決まっていない時期の開講で、自分なりに考えた研究テーマをもって一回目の講義に臨んでください。</p> <p>八木: 統計学は、数学とは異なります。統計学を理解するために、統計学と疫学に独自の用語および考え方に興味をもつようにしてください。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 研究方法論</p>	<p>【担当教員】 高橋洋（運動機能科学コース） 道関京子（高次脳機能障害コース） 都地裕樹（コース共通）</p> <p>【研究室】 サテライト教室</p>
<p>【授業区分】 基礎科目</p>	<p>【メールアドレス】</p>
<p>【授業コード】 A 104 (T)</p>	<p>道関：kei.doseki@gmail.com 都地：tsuji-chuo@tamacc.chuo-u.ac.jp 高橋：hiroshit@nur05.onmicrosoft.com</p> <p>【オフィスアワー】 来学時に対応・土～日曜日</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》 問題意識を形成し、研究課題について考えておくこと。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》 特になし</p>	
<p>【講義概要】（オムニバス方式）</p> <p>実験で得られたデータに対する統計学的解析は必要不可欠である。統計学の基礎的な考え方、用語、分析方法の意味、および統計的検定の方法を学習する。その実際的な適用の仕方について学び、実用に即したデータ処理が行えるようにする。</p> <p>学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、実験計画を立てるために必要な知識を議論しながら検討し明確化していく。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>統計学的解析を具体的に理解し、適用する能力を養う。</p> <p>研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 記述統計学について理解する。 2) 推測統計学について理解する。 3) 仮説検定について理解する。 4) 様々な統計的手法について理解する。 5) 研究とは何か、各研究方法の特徴を理解する。 6) 研究のグランドデザイン、実証研究の量的、質的研究について理解する。 7) 課題から仮説の設定と、仮説に基づいた実験計画をたてることができる。 8) 学術論文の構成と、および資料やデータ支援の Website やソフトウェアの活用を理解する。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>授業への取り組み 50%、課題レポート 50%の割合で評価する。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜資料配布の予定 	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>随時説明する。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	記述統計学・推測統計学 (都地)	記述統計学・推測統計学、それぞれの特徴と考え方、および相関について講義する。	統計用語の基本を調べておく。課題を解きレポートとして提出する。	90分
2	仮説検定 (都地)	仮説検定の方法や、t検定、F検定、 χ^2 検定について講義する。	課題を解きレポートとして提出する。	90分
3	分散分析 (都地)	分散分析について講義を行う。	課題を解きレポートとして提出する。	90分
4	ノンパラメトリック検定・講義のまとめ (都地)	ノンパラメトリック検定の紹介および、これまでの講義のまとめを行う。	これまで学んだ統計知識を整理する。	90分
5 高次	科学的な研究方法－研究のグランドデザイン (道関)	科学的な研究の基本、課題の設定、仮説に基づいた実験計画プランニング－研究の種類学術論文の構成	各自の研究テーマを考え、それに基づいた総説論文を探す。	60分
6 高次	論理のまとめ方 (道関)	先行研究検索、文献の読み方	搜した総説文献の情報を活用しながら仮説を複数立てること。	60分
7 高次	神経心理学研究 (道関)	脳の機構と構造を基盤とする力動的人間研究および臨床研究	仮説の実現性を検討する。立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	60分
8 高次	神経心理学研究 (道関)	軌道修正の必要性－研究例紹介	研究計画についてのレポートを提出する。	60分
5 運動	統計の基礎 (高橋)	基本的な統計の考え方	1～4コマまでの復習	30分
6 運動	統計的検定の基礎 (高橋)	統計的検定の考え方	1～4コマまでの復習	30分
7 運動	文献の構成 (高橋)	文献読み合わせと説明	文献を読む	30分
8 運動	文献の構成 (高橋)	文献読み合わせと説明	文献を読む	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法】</p> <p>講義中に解説していくほか、別に解説時間をとる。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>まだ具体的でなくても、自分の研究テーマをもって講義に望むこと。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	【担当教員】 的場已知子
【授業区分】 共通科目	[研究室]
【授業コード】 a 105	[オフィスアワー]メールにて対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>精神医学についての一般的な基本知識を得ている（国試レベル）ものとして講義を行います。</p> <p>精神医学に関する基本的な講義を受講したことのあるレベルを対象に行います。</p> <p>実際の診察や面接の場面を想定して、臨床力を培えるように指導します。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>資料配布は事前に配布致します。</p>	
<p>【講義概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な精神疾患の患者さまに対する実践的な理論と支援についての技法を学ぶ。 <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なメンタルヘルス上の問題に対処できるようになること。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 ・臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考え、解決に向けた支援を自ら構築できるようになること。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート提出100%で評価を行う。</p> <p>1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>「エキスパートに学ぶ精神科初診面接」[日本精神神経学会 精神療法委員会]¥4,950</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>精神科医が教える聴く技術[ちくま書店].</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	発達の過程における主な精神疾患とその対応について	マズローの発達階層説に基づき予防的な視点も含めその対処法を考察する.	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。 事後：振り返り、何が自分にとって必要かを認知すること.	30分
2	異常と正常についてと日常化の問題	病に対する姿勢と面接・支援の基本を学ぶ		30分
3	心理検査とその使い方について	臨床における心理検査の使い方を学ぶ		30分
4	臨床検査とその使い方について	臨床における検査データを読み取り対応できる		30分
5	事例A	小児・児童に関わるもの		30分
6	事例B	思考障害について		30分
7	事例C	人格の問題を扱う事例について		30分
8	事例D	器質疾患の関与の事例について		30分

※授業日・講義室は随時、配信します.

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートにコメントを付けて返却します.</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う.</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>実際の日常生活の中で精神的な問題を回避することは出来ません. 多くの選択肢の中から自らが提示できるよう、柔軟な思考を求めます.</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 公衆衛生学総論	【担当教員】 加藤豊広（客） [研究室] 客員教員室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] k3027867@kadai.jp
【授業コード】 a 106	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 公衆衛生学は、健康の保持・増進と疾病の予防を目的とした社会医学でありその領域は広い。本講義では衛生学・公衆衛生学・疫学・統合医療の理論と保健医療福祉の法律について学習する。 【一般教育目標(GIO)】 公衆衛生学の知識を身につける。 統合医療の知識を身につける。 保健医療福祉と関連する法律の知識を身につける。 【行動目標(SBO)】 公衆衛生学の研究をデザインできる。 統合医療を説明できる。 保健医療福祉と関連する法律について説明できる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で評価を行う。	
【テキスト・教科書】 プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 その都度紹介していく。	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	公衆衛生学とは何か	衛生学・公衆衛生学・疫学・統合医療	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
2	健康問題の変遷と医療の歴史	狩猟採集漁労・農耕牧畜・工業社会と伝統医療（統合医療）	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
3	法律と医療 I	憲法・民法と医療	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
4	法律と医療 II	民法・刑法と医療	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
5	健康指標	比率（罹患率や有病率等）と人年法	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
6	研究デザイン	記述的な研究とコホート研究・症例対照研究	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
7	因果関係	ロスマンのパイモデルと偶然・系統的誤差	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分
8	研究デザインと EBM (evidence-based medicine)	ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究と EBM	配布したプリントやノートを読み知識の整理を行う	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>レポートにコメントを付して返却します。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>研究をデザインする場合に公衆衛生学の基礎知識は大変役立ちます。法律の知識は臨床にとっても有用です。可能な限り受講してください。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 教育心理学(教育分野に関する理論と支援の展開)</p>	<p>【担当教員】 氏名 阿久津 洋巳 [研究室] E棟2階</p>
<p>【授業区分】 共通科目</p>	<p>[内線番号] 310</p>
<p>【授業コード】 a 107</p>	<p>[メールアドレス] hakutsu@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 12:40～13:30 (月～木)</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>「心理学概論」などの心理学の基礎科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>学部の統計の授業を履修していることが望ましい。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>教科書や参考書で予習復習すべき箇所を授業中に伝えますので、予習復習を行ってください。また、授業中に関連する文献を紹介しますので、これも読んでください。授業には遅刻せずに出席してください。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>教育現場において生じる問題と背景を概観した後、学習、動機づけ、記憶、知能、学力などの心理学的事項を教科書と研究論文等を使って紹介する。教育に関する事象を学術研究の成果に即して理解する能力を獲得することを目的とする。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>教育心理学の基礎事項を習得すると共に、教育に関心を持ち、教育に関する事象を科学的に理解するための視点を獲得する。教育に関する数値を扱う技能を修得する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>教育心理学のトピックについて説明できる。</p> <p>授業に毎回出席して、与えられた課題レポート期限までに提出できる。</p> <p>授業で指示された文献を読んで、学習した知識を応用して与えられた質問に答えられる。</p> <p>授業中の文献を講読する場合は、議論に積極的に参加できる。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>小テストと定期試験を実施する。授業中の議論に積極的に参加する態度を成績の評価に加える。</p> <p>試験30%、レポート30%、小テスト20%、授業への参加20%の割合で評価する。単なる出席は評価に含めない。</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>教育心理学 第3版(ベーシック現代心理学6) 子安・田中・南風原・伊藤(著) 有斐閣 2015/3/23 ¥2268</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>教育心理学概論(放送大学教材) 放送大学教育振興会、新訂版 三宅・三宅(著)(2014/3/1) ¥2268</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	教育心理学の課題	教育心理学と学校教育	教科書を読む	150分
2	発達と教育	児童期と青年期の心理と学校	教科書と指定文献を読む	150分
3	適応と障害の理解	学校と不適応、発達障害	教科書と指定文献を読む課題 レポートを作成する	150分
4	認知心理学からみた学習	学習、記憶、思考	教科書と指定文献を読む	150分
5	学級集団の理解	学級集団の役割と心理	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150分
6	授業方法と教師の役割	授業方法と適性処遇効果	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150分
7	教育評価の方法	教育と評価、学力テスト、性格テスト	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150分
8	教育データと分析結果の見方	グラフの見方、要約統計の読み方、推測統計の 読み方	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	150分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>他に支障がない限り、試験答案やレポートは返却する。返却できない場合は、点数を通知する。また、課題に対する解答を考慮して授業の内容と方法に修正を加えることもある。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>学位授与の方針1 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>いくつかの基礎的な心理学の科目を学部で受講していることが望ましい。毎回課題が与えられますので復習の時間を確保してください。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 看護教育学	【担当教員】 氏名 金子 史代 [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[内線番号]
【授業コード】 a 108	[メールアドレス] jijamu4375@gmail.com [オフィスアワー] 授業終了後に教室で質問を受け付ける
【配当年】 1年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 なし 《受講のルールに関わる情報》 文献検討、ディスカッションにより内容を深めます。	
【講義概要】 日本における看護教育がどのように発展してきたかを日本の看護教育の歴史的背景から理解する。さらに、今日の看護教育の特徴を学ぶとともに、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習における教育的機能を探求し考察する。 【一般教育目標(GIO)】 日本における看護教育の発展とその特徴を理解し、看護職者への教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。今日の看護の教育の現状と課題から、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習を支援する教育を展開する基礎的な知識と技術について学習を深める。 【行動目標(SBO)】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の看護教育の歴史的背景から継続教育の現状と課題を説明できる。 ・看護の専門職の継続教育の展開に必要な基礎的理論を説明できる。 ・看護の継続教育を展開する基礎的な知識と技術を理解し、具体的な方略を考察できる。 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート 40% 学習の準備と発言 30% プレゼンテーション 30% : レポートの課題は授業の前に提示します。	
【講義で使用する書籍・文献・資料等】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護教育学第6版」杉森みど里、舟島なおみ著、医学書院 ¥5018 2018 2. 「看護管理学習テキスト 第3版 第3巻 人材管理論」2020年度版、伊部敏子 中西睦子監修、手島恵編集、日本看護協会出版会 ¥4290 	
【講義の参考となる書籍・文献】 「看護学教育評価の基礎と実際」田島恵子、医学書院 ¥2800 2009	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	ガイダンス 日本の看護教育学の歴史の変遷 1	看護教育と看護教育学 看護教育制度	「看護教育学第 6 版」、第 1 章	90 分
2	日本の看護教育学の歴史の変遷 2	看護教育と看護教育学 看護教育制度	「看護教育学第 6 版」、第 1 章	90 分
3	日本の看護教育学制度 1	教育課程の構造 カリキュラムの構成 カリキュラムの類型	「看護教育学第 6 版」、第 3 章	90 分
4	日本の看護教育学制度 2	教育課程の構造 カリキュラムの構成 カリキュラムの類型	「看護教育学第 6 版」、第 3 章	90 分
5	日本の看護教育学制度 3	教育方法と評価	「看護教育学第 6 版」、第 5 章	90 分
6	日本の看護教育学制度 4	教育方法と評価	「看護教育学第 6 版」、第 5 章	90 分
7	日本の看護教育学制度：まとめ 課題と展望	教育課程 カリキュラム 教育方法と評価	発表の準備 復習	90 分
8	ケアリングカリキュラム 1	ケアリングの理解	文献提示「アクト・オブ・ケアリング」	90 分
9	ケアリングカリキュラム 2	教育的ケアリング	「ケアリングカリキュラム」、 第 1 部	90 分
10	ケアリングカリキュラム 3	教育的ケアリング	「ケアリングカリキュラム」、 第 1 部	90 分
11	看護の継続教育の現状と課題 1	専門職 生涯教育	看護教育学第 6 版)、第 7 章	90 分
12	看護の継続教育の現状と課題 2 新人看護職員の教育	新人看護職員研修ガイドライン	看護教育学第 6 版)、第 7 章	90 分
13	看護の継続教育の現状と課題 3 スペシャリストの教育	認定看護師 専門看護師 特定行為研修	「看護における人的資源活用 論」、第 1 章	90 分
14	看護の継続教育の現状と課題 4 ジェネラリストの教育	クリニカルラダー	「看護における人的資源活用 論」、第 2 章	90 分
15	看護の継続教育：まとめ 課題と展望	教育的ケアリング 看護の継続教育 生涯教育	発表の準備 復習	90 分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>各時間に提示した文献を読んで考えをまとめてくる。授業内でそのレポートへのコメントをします。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>プレゼンテーションとディスカッションにより内容を深めます。これまでの経験を振り返り授業に臨んでください。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 臨床解剖学	【担当教員】 松村博雄 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[内線] 304
【授業コード】 a 109	[オフィスアワー] 来学時に対応
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 後期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特になし 《受講のルールに関わる情報》 特になし	
【講義概要】 突起や骨の形状、靭帯、腱、筋腹や皮膚のしわを参考にして皮膚の下に存在する解剖構造を知ることは、安全な臨床診療を進める上で不可欠です。また、運動、皮膚の神経支配などの知識や発生学的な知識も臨床の場で大変役に立ちます。 このように、局所解剖学の実際の知識が臨床の場では必要とされています。人体各部の局所解剖学を臨床と関連付けて解説します。 【一般教育目標(GIO)】 体表からの生体観察に基づく所見をもとに、その下にある局所解剖学的な構造を理解し、リハビリ診療の際に応用して役立てる。 【行動目標(SBO)】 生体観察の特徴をもとに、その下の解剖学的な構造を、皮膚、骨格、筋肉、神経、血管、内臓、感覚器などの観点から説明し応用する。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 試験100%の割合で評価する。	
【テキスト・教科書】 特になし	
【指定図書・参考書】 特になし	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	上肢の局部解剖学 (1)	外側上顆炎	肘関節を構成する骨性成分	30分
2	上肢の局部解剖学 (2)	前腕の局所解剖学	前腕の筋肉について	60分
3	足根管症候群	足関節の靭帯と筋、足根管の構造	足関節を構成する骨性成分	30分
4	脊髄の伝導路	ブラウン・セカール症候群	脊髄の解剖学	60分
5	脳幹の伝導路	ウェーバー症候群	脳幹の解剖学	60分
6	感覚の伝導路	伝導路の障害で起こる症状について	間脳と大脳の解剖学	60分
7	破格筋について	胸骨筋の解剖学	胸壁の構造について	30分
8	腕神経叢	腕神経叢から出る神経の行く末 腕神経叢と腋窩動脈の関係	腋窩の構成について	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>理解度確認テストにコメントを付して返却。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>特になし</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 神経解剖学	【担当教員】 氏名 伊林克彦 [研究室] E棟2階
【授業区分】 共通科目	[内線番号] 308
【授業コード】 a 115	[メールアドレス] ibayashi@nur05.onmicrosoft.com [オフィスアワー] 水曜日午後
【配当年】 1年次	【単位数】 2単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 15コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>授業の開始前に人体の名称や機能をあらかじめ学んでおく。特に病巣との関連を含め、神経系の解剖学的な名称及び役割が必要となってくる。</p> <p>授業終了後、次の講義へのステップとしてその日の十分な復習が望まれる。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>この講座を最後まで学ぶ為にできるだけ多くの解剖学書・神経学書及び神経解剖学の成書・辞書等を読み砕く必要がある。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>日常生活活動における言語・行為・認知等の障害をきたす高次脳機能障害を理解するために、頭部や脳幹の中樞神経系の機能について十分な時間を割き、より高度な科目への予備的授業を目標とする。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>脳血管障害や頭部外傷等による神経心理学的症状を理解するために、大脳を含めた中樞神経系の機能や病態について学び将来のリハビリテーション分野での知識を高める。講義修了時には内容の50～60%の達成率を目指す。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年における失語・失行・失認について歴史的概観を説明できる。 ・個々の神経心理学症状について解剖学的病巣を述べることができる。 ・中樞神経系における灰白質と白質の機能について説明できる。 ・脳血管障害や頭部外傷及び脳腫瘍等におけるCTやMRIの基本的な見方が言えるようにする。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験80%、レポート20%の割合で評価する。</p>	
<p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>特になし。授業開始時プリントを配布。</p>	
<p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>半田肇：「神経局在診断—その解剖、生理、臨床—」</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	神経心理学の歴史 (大戦前)	ブローカやウェルニッケが明らかにした失語症について説明する。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
2	神経心理学の歴史 (大戦後)	リープマンの失行の概念やその他の著名な研究者について解説。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
3	大脳・脳幹・小脳・脊髄について	左記の4つの中枢神経について理解する。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
4	大脳・脳幹・小脳・脊髄について	左記の4つの中枢神経について理解する。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
5	大脳・脳幹・小脳・脊髄について	左記の4つの中枢神経について理解する。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
6	前頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
7	前頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉の名称と機能について学ぶ。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
8	頭頂葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
9	頭頂葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
10	側頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
11	側頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
12	後頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
13	後頭葉の機能について	大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
14	脳神経について	神経系における12対の脳神経について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分
15	脳神経について	神経系における12対の脳神経について。	大脳の機能を含む中枢神経系の学習。	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法】</p> <p>試験や授業の後で個々にフィードバックする。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 神経心理学	【担当教員】 道関京子 [研究室] サテライト教室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] kei.doseki@gmail.com
【授業コード】 a 110	[オフィスアワー] 土～日曜日
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 1) 高次脳の機能と構造について再考し最新の知識を学習する。 2) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する機能因子を探究する観察の重要性を学習する。 3) 視覚・聴覚・体性感覚・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現を脳部位とともに学習する。 3) 特に前頭葉と頭頂葉の役割および右半球・皮質下との関連について学ぶ。 【一般教育目標(GIO)】 ・高次脳機能障害患者の様々な症状の意味を的確に把握、理解できるようにする。 【行動目標(SBO)】 ・症状理解の方法が分かる。	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 研究発表を課する。授業への取り組み 50%、研究課題発表 50%の割合で評価する。 講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、予備日に補講する。	
【テキスト・教科書】 Luria：神経心理学の基礎-脳の働き。鹿島晴雄訳，創造出版，2003。 適宜追加資料を配付する。	
【指定図書・参考書】 山鳥 重：神経心理学入門。医学書院，1986 Rita Carter：Mapping the Mind。University of California Press; Revised 版 2010。（初版邦訳「脳と心の地形図」養老孟司監修，藤井留美訳，原書房，2000.）	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	神経心理学の歴史と方法	脳を自己制御系として認識し、精神活動、運動と行為の機能的構造、その実現の脳の役割についての研究の歴史と方法概括	教科書の担当章を決定	60分
2	機能、局在、症状概念の再検討1	脳の局所病変と機能局在の基本原則 精神諸過程の系(システム)的構成	担当章に関する研究:文献検索を主に	60分
3	機能、局在、症状概念の再検討2	脳の三つの基本的機能単位系 覚醒調節, 情報受容, 活動, 相互作用	担当章に関する文献研究	60分
4	脳の局在系と機能分析:後頭領域	聴覚機構 要素的視覚機能、視覚-認知機能	担当章をまとめ、発表に向けた準備	60分
5	脳の局在系と機能分析:側頭領域	聴覚機構 要素的聴覚機能、聴覚-認知機能	担当章をまとめ、発表に向けた準備	120分
6	脳の局在系と機能分析: 感覚運動領域と前運動領域	運動の求心性機構、遠心性機構	担当章発表後のまとめと考察	60分
7	脳の局在系と機能分析:前頭葉	運動と行為、記憶および知的行為、前頭葉症状群	担当章発表後のまとめと考察	60分
8	脳の局在系と機能分析: 後頭、側頭、頭頂領域間の第三次 領域	同時性統合(具体的空間的統合、象徴的準空間的統合、言語記憶)と右半球の頭頂-後頭領域機能	神経心理学の各症状について具体的に調べ考察	60分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】</p> <p>毎回の課題に関しコメント・解説する。不足分は別に時間をとる。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】神経心理を単なる表面から症状分析・集積するのではなく、脳中枢神経系の解剖や構造・機能系の成立を考えていける力をつけたい。また、講義の流れにより講義内容の順序等変更することがある。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 リハビリテーション臨床学	【担当教員】 的場已知子 [研究室]
【授業区分】 共通科目	[内線番号]
【授業コード】 a 111	[メールアドレス] [オフィスアワー]メールで対応します
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>心理学の基礎知識（国試レベル）を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。</p> <p>学外で授業を行うため、交通費等が発生する場合があります。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。 <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等・</p>	
<p>【テキスト・教科書】</p> <p>特になし</p>	
<p>【指定図書・参考書】</p> <p>臨床心理学講義（杉浦京子）朱鷺書房，2008，¥2,800</p> <p>「聞く」こと力，鷺田清一，（TBSブリタニカ）</p> <p>現代言語論，立川健二・山田広昭，（新曜社）</p> <p>心理査定実践ハンドブック，（創元社）</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは.	実践（臨床体験） ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと. 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する.	30分
2	人間理解の方法			30分
3	臨床心理学の基礎理論			30分
4	心理学援助の方法Ⅰ			30分
5	心理学援助の方法Ⅱ			30分
6	心理学援助の方法Ⅲ			30分
7	様々な分野における連携と応用Ⅰ			30分
8	様々な分野における連携と応用Ⅱ			30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>メール等で個別に対応します。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>実際の臨床現場で，症例検討を行います。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 リスク管理学	【担当教員】 田中 裕 (非) [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[メールアドレス] tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
【授業コード】 a 112	[オフィスアワー] 授業終了後に教室で質問を受け付ける さらに随時電子メールでも質問を受け付ける
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
【注意事項】 《受講者に関わる情報》 特記なし 《受講のルールに関わる情報》 特記なし	
【講義概要】 近年、高齢社会を迎え、急性循環不全・呼吸不全など、医療現場において患者の生命を脅かすような不測の緊急事態に遭遇することは決して少なくない。特に、超高齢者や摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時には、誤嚥、窒息、肺炎などの生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、高次脳機能障害者では脳卒中等の急性期管理などの危険をも伴う。そこで、この講義ではこれら医療現場における「患者の全身状態の把握方法」と「医療事故の発生を防止する対策」について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につけることを目的とする。さらに緊急事態の発生時にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念と知識を身につけるとともに、実際に「救急時の対応方法」を習得することを目標とする。	
【一般教育目標(GIO)】 医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。	
【行動目標(SB0)】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインとその評価方法について説明できる ・心肺蘇生法適切に行える ・AEDを適切に使用できる ・救急蘇生について説明できる ・全身疾患とそのリスクについて説明できる 	
【評価に関わる情報】 《成績評価の基準・方法》 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 本講義の記述式試験を実施する。試験 40%、レポート 40%、授業・課題への取り組み 20%の割合で総合的に評価を行う。	
【テキスト・教科書】 授業開始時に授業プリントを配布する。	
【指定図書・参考書】 瀬尾憲司：これで一次救命処置はわかった AHA ガイドライン 2015 に沿った BLS の理解のために、医歯薬出版 (3,800 円＋税) BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2015 準拠、株式会社シナジー (3,900 円＋税)	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	リスク管理学 総論	リスク管理総論 バイタルサインの読み方・考え方	事後：学修した内容の復習	20分
2	リスク管理学 各論1-1	循環器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
3	リスク管理学 各論1-2	呼吸器系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
4	リスク管理学 各論1-3	代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
5	リスク管理学 各論1-4	その他の疾患を有する患者のリスク管理	事後：学修した内容の復習	20分
6	リスク管理学 各論2-1	救急蘇生1 —成人・小児乳児の心肺蘇生法—	事後：学修した内容の復習	20分
7	リスク管理学 各論2-2	救急蘇生2 —AEDの使用法、窒息の解除法—	事後：学修した内容の復習	20分
8	リスク管理学 各論2-3	救急蘇生3 —生命を脅かす緊急事態の対応—	事後：学修した内容の復習	20分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>課題に対する解答例を授業内で説明します。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>医療従事者として、最低限の医学的知識、医療事故予防対策、および患者急変時の救急対応技術を身に付けていただきたい。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

【科目名】 職場マネジメント	【担当教員】 氏名 小野 東 [研究室] 非常勤講師室
【授業区分】 共通科目	[内線番号]
【授業コード】 a 113	[メールアドレス] ono@innovator.or.jp [オフィスアワー] 講義の無い時は随時メール対応いたします
【配当年】 1年次	【単位数】 1単位
【開講時期】 前期	【コマ数】 8コマ
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》 前提知識は必要ありません。</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>本講義のねらいは単なる知識の習得ではありません。授業でマネジメントについて学習する中で、各自の職場の問題や課題を考え、職場と皆様が成長していける力を身につけていただきます。どの職場もほぼ共通した課題を抱えています。</p> <p>組織の衰退も発展も自分の成長もマネジメントで変えることができます。マネジメントは、「働きかた改革」やさまざまなリスクなどの影響もあり一段と重要になってきました。</p> <p>新人の方も管理者の方もそれぞれの立場で重要な職場のマネジメントや管理を基礎から学びます。</p> <p>授業中やその他の積極的な質疑等を歓迎します。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>職場は単に人が集まったところではなく一定の使命や責任を持った「組織」を形成し、職場固有の業務を遂行します。組織となることで一人では不可能なことが実現できるのが職場です。また構成員は職場を通じて自らの夢を実現できます。自らの生活も成り立ちます。大半の人にとって職場は人生で最も長い時間を過ごす場でもあります。しかし、逆に人が集まることで一人なら起きないような多くの葛藤や悩みも生まれます。結果的に職場本来の力も発揮できなくなり、その目的すら見失うことも起きます。職場は職場自体の成長と同時に、自分にとっても価値ある場であることが重要となります。専門性の高さだけでは職場は必ずしもうまく運営できません。その専門性すら活かさせません。職場の特性を知り管理やマネジメントについて学び実践することで職場も自分自身も成長できます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>この授業では、大学、病院あるいは企業等の職場に共通する管理やマネジメントについて学ぶことで、より良い職場とすることやより良い職業人となっていただくことを目標としています。職場の成長や諸問題解決あるいは改善に役立つ、管理やマネジメントの能力が獲得できます。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場と組織の特徴や個人の働く意義との関係などについて学ぶ。 ・職場におけるマネジメントとは何かを学ぶ。 ・リスクにさらされる職場のリスクマネジメントについて学ぶ。 ・職場を継続的に発展成長させるための変革、革新とは何かを学ぶ。 ・現場における「改善」について学ぶ。 	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>授業中の質疑応答等 20%、最終課題のレポート 80%の合計を満点として評価します。</p>	
<p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>本講義オリジナルのパワーポイントテキストを配布します。</p>	
<p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>講義に関連したものを適宜紹介します。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	職場とは何か	職場とは何か、その原点を考えることで人が働くことの意味や意義、個人と職場との関係性などについて学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
2	職場と組織	大半の職場は組織でもあります。組織には多様な形態があり多様な人財からなります。組織の特徴や負うべき責任について学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
3	組織運営	職場はその本務達成のために労務、予算、日程などの諸計画が立案遂行されます。一方、職場は自己実現の場という側面もあります。その管理及びマネジメントの本質について学びます	学修した内容の復習を行う	30分
4	組織のリスクマネジメント	組織運営は内部、外部からのあらゆるリスクにさらされています。リスクを想定しそれらをマネジメントしていくことが現在の組織運営の必須事項となってきました。BCPはじめ、リスクマネジメント全体について学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
5	組織の成長発展	組織も人間の体と同じで時間とともにやがて成長が鈍化し劣化、衰退していきます。それを防ぐために必要なことは変化に気づき組織の変革を実践していくことです。その実践を学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
6	職場改善	マネジメントの原点を理解した上で現実、現場に対応した5Sなどの職場改善が必要です。良い現場とするための改善について学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
7	職場の人財戦略	職場のマネジメントは人のマネジメントでもあります。人は正当に評価されなければ嬉しくありません。「働き方改革」の時代、人財戦略について学びます。	学修した内容の復習を行う	30分
8	職場の日常運営	職場は惰性に陥りがちです。惰性に陥らず活力のある運営を行うには日々が重要です。そのことを学び考えます。	学修した内容の復習を行う	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>各自のレポート内容に応じたコメントを付して返却し質問にもメール等にてお答えしています。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>
<p>【教員からの一言】</p> <p>ほとんどの方は職場で人生の大半を過ごします。職場は人生そのものかもしれません。職場は生きがいを与えてくれ、自分の夢の実現もできる素敵な場所です。しかし働けば働くほど問題や悩みや葛藤も生まれます。マネジメントや管理はそれを解決する一助となります。私も職場では悪戦苦闘の日々でした。幸い、多数の失敗を重ねながらも今日まで来ることができましたが、これは一重に良き先輩や指導者のマネジメントのおかげなのです。もし事前に職場とマネジメントについて学ぶ機会があればさらに良かったな、とは後にして思ったことでした。この講義ではそれらの経験や先人の知恵や実践を多数教材に入れてあります。授業を通して少しでも参考になることがあれば幸いです。良き職業人として成功されることを願っています。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】</p> <p>課題解決型学習/ ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>

リハビリテーション研究科リハビリテーション医療学専攻

<p>【科目名】 教育指導法</p>	<p>【担当教員】 鈴木憲雄（非） [研究室] 非常勤講師室</p>
<p>【授業区分】 共通科目</p>	<p>[内線番号]</p>
<p>【授業コード】 a 114</p>	<p>[メールアドレス] norisuzuki@nr.showa-u.ac.jp [オフィスアワー] 開講日の授業終了後に教室で質問を受け付ける。</p>
<p>【配当年】 1年次</p>	<p>【単位数】 1単位</p>
<p>【開講時期】 前期</p>	<p>【コマ数】 8コマ</p>
<p>【注意事項】</p> <p>《受講者に関わる情報》</p> <p>なし</p> <p>《受講のルールに関わる情報》</p> <p>各自ノートパソコンを持参してください。グループワークやプレゼンテーションを行うときに使用します。</p>	
<p>【講義概要】</p> <p>皆さんは、今後、専門領域の研究者として使命を果たす一方で、後輩育成あるいは教育施設での指導など、教育者としての役割を担うことが予想されます。例えば授業を担当する場合、何を準備するとよいだろうか、どのように指導したらよいか、何を教えたらいいか等、疑問は尽きません。本科目は、授業を実施するための準備として必要になる教育指導法に関する基礎的知識を学びます。</p> <p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>授業を計画、実施し、学習の程度を適切に評価するために必要となる基礎的知識を理解する。</p> <p>【行動目標(SBO)】</p> <p>01/ 「教える」の意味を説明できる。(想起・解釈) 02/ 教授錯覚とは何か説明できる。(想起・解釈) 03/ 「一般目標」「行動目標」「教育目標の3領域」とは何か説明できる。(想起・解釈) 04/ 情意領域の行動目標をポファムの方法により作成できる。(想起・解釈) 05/ 「一般目標」「行動目標」を作成できる。(解釈) 06/ シラバスとは何か説明できる。(想起・解釈) 07/ 形成評価、総括評価とは何か説明できる。(想起・解釈) 08/ 多肢選択問題を作成できる。(解釈) 09/ ルーブリック評価表を作成できる。(解釈) 10/ 正答率、識別指数を算出できる。(解釈)</p>	
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>《成績評価の基準・方法》</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>筆記試験（多肢選択）30%、課題発表（GIO, SBO s、ルーブリック）70%の割合で評価する。</p> <p>課題発表は、ルーブリック評価により採点する。</p> <p>欠席により出席要件を満たさない場合は、別途課題を課し評価する。</p>	
<p>【講義で使用する書籍・文献・資料等】</p> <p>必要に応じて資料を配布いたします。</p>	
<p>【講義の参考となる書籍・文献】</p> <p>日本医学教育学会：医学教育マニュアル1 医学教育原理と進め方、篠原出版新社、1978 日本医学教育学会：医学教育マニュアル2 カリキュラムの作り方、篠原出版新社、1979 池田輝政・他：成長するティップス先生、玉川大学出版部、2001 齋藤喜博：授業の展開、国土社、2010 他、授業内で紹介します。</p>	

【授業テーマ・内容】				
回数	テーマ	内容	授業外に行うべき学修活動 (準備学修・事後の展開等)	授業外 標準学修 時間(分)
1	「教える」の意味 教育目標の階層性	「教える」2つの用法、教授錯覚、教育 施設の目標、ポリシー、コンピテンシー *SBOs1 及び SBOs2 に該当	配布資料に基づき、学習した キーワードの意味を確認する とともに、教育目標に該当す る部分を一読し、疑問点を抽 出する。	30分
2	教育目標の種類	一般目標、行動目標、教育目標の3領域 *SBOs3 に該当	配布資料に基づき、学習した キーワードの意味を確認する とともに、情意領域の学習目 標作成に該当する部分を一読 し、疑問点を抽出する。 教育目標立案演習で扱う科目 を選定する。	30分
3	教育目標の立案	情意領域の学習目標作成 教育目標立案演習 *SBOs4 及び SBOs5 に該当	作成している学習目標の見直 し及び発表準備。	30分
4	教育目標立案	教育目標の立案(課題1)及び発表 *SBOs4 及び SBOs5 に該当	配布資料に基づき、「シラバ スに該当する内容を一読し、 疑問点を抽出する。	30分
5	教育目標立案 シラバス	シラバスに記載すべき内容 *SBOs5 及び SBOs6 に該当	配布資料に基づき、「教育評 価」に該当する内容を一読し、 疑問を抽出する。	30分
6	学習評価	形成的評価、総括的評価、ルーブリック 評価 ルーブリック評価作成演習(課題1) *SBOs7・9 に該当	多肢選択問題作成演習のため に、対応する教科書、資料等 を用意する。	30分
7	試験	客観試験、多肢選択問題作成の原則、 多肢選択問題作成演習(課題2) *SBOs8 に該当	配布資料に基づき、正答率、 識別指数に該当するところを 一読し、疑問を抽出する。	30分
8	試験	正答率、識別指数とは何か。 その算出方法 SBOs10 に該当	全体を振り返り、疑問点を抽 出する。	30分

※授業日・講義室は随時、配信します。

<p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 課題発表に対するフィードバックは、受講者間でのディスカッションを含め、課題発表終了後、その場で発表内容についてフィードバックを実施する。試験については、試験終了後、その場で解答を示すとともに解説を加える。</p>
<p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 本科目は、本学教育理念の「教育者の育成」に対応しており、ディプロマポリシーの特に「1. リハビリテーション医療に対する理解を深めるために、専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢」を身につけることに強く関連する。</p>
<p>【教員からの一言】 本科目は、教育方法を検討するために必要となる基礎的内容を学習します。主な学習方法は short lecture により基礎知識及びテーマを提示し、グループワーク、そして発表を繰り返す、学習を進めます。これまでに教育について全く履修した経験のない方、過去に履修経験はあるが、再度振り返りを希望する方は是非履修してください。「教える」ということについて、一緒に考えましょう。受講者数によって、学習目標は同じですが、その方略を変更する場合があります。ご了承ください。</p>
<p>【講義の中で展開するもの】 課題解決型学習 / ディスカッション・ディベート / グループワーク / プレゼンテーション / 実習・フィールドワーク</p>